

小学校第5学年 総合的な学習の時間 学習指導案

期 日 平成24年10月3日(水)第5校時
場 所 南阿蘇村立中松小学校 図書室
指導者 5年1組担任 教諭 山下 洋
なでしこ組担任 教諭 河野 由美

1 単元名

「『なかまつ』お米づくり隊」～広げよう笑顔！米づくりの活動を通して～

2 単元について

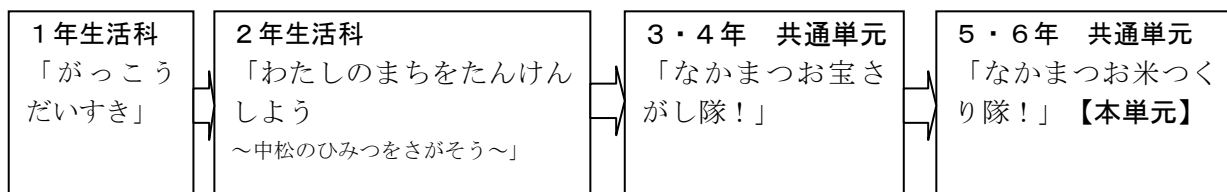
(1) 単元観

本単元では、児童が保護者や地域の方々とかかわりながら、1年間の米作りに携わる体験活動を通して、中松地区の土壌や水のよさ、本校で長年続けてきた救援米活動による国際貢献、さらに米作りの苦労や収穫の喜びを体感するとともに、自分たちが収穫した米をどのように活用し、どう行動していくのかを考え、議論し、プランを実現していくことで、児童の達成感や自己有用感を育てることができる。

また、昨年度は、上記の活動の他、収穫した米を東日本大震災における支援米として活用することを児童自らが決め、宮城県東松島市小中学校の給食米として送付した。このことで社会貢献をしたという実感を味わい自己有用感を高めることができた。

今年度は、保護者、地域の方々と日本ユネスコ協会連盟をはじめ関係機関との連携を図るとともに、探究的な学習過程において、情報活用場面を効果的に設定し、情報活用能力の育成を目指すことで、昨年度の活動をさらに発展させたい。

(2) 系統観



(3) 児童観（男子8人、女子15人 計23人）

- 昨年度の上級学年の取組から、学校田の世話をすることは知っているが、稲作活動の目的や意義については認識していない。
- 4年時での取組「なかまつお宝探し隊」の学習を通して中松の自然や地域のよさ、特に南阿蘇湧水群のすばらしさを認識し、ふるさと中松への誇りと愛情をもっている。
- 協同で課題解決していくことを好む学級集団である。
- 他者とのコミュニケーション能力や、自分の考えや思いを伝えたりする力には個人差がある。
- 探究的な学習では、自分なりの課題を設定したり、解決の方法を見出していくが、発信のために必要な情報を収集したり、活かしたりすることが苦手である。

(4) 指導観（「なかまつ学習」の視点から）

な…「なんだろう」

- ・ウェビングマップ、イメージマップ、ブレインライティング等を用いて、自分たちが栽培する米について知っていることを自由に出し合い、課題設定へとつなげていく。
- ・他教科、国語科「生き物は円柱形」、社会科「私たちの生活と食料生産」、理科「植物の成長」など横断的な学習によって米づくりについて焦点化する。
- ・学習の目的を明確にするために、学習計画表をつくり、学習の見通しを持たせる。
- ・地域の方や、行政や関係機関などのゲストティーチャーを招き、体験学習を多く取り入れる。
- ・何のために米づくりをしていくのか目的意識を持たせるために、新聞記事、手紙、写真を有効に活用し、「知りたい」「調べたい」という学習意欲を高める。

か…「かんがえよう」

- ・インターネット、ICT 機器、テレビ電話、新聞記事などを活用して情報を収集し、根拠となる情報によって、米栽培の目的や収穫後の使用目的の理由について考えられるように、個に応じた情報収集の場を提供する。
- ・自分の課題は何かを常に明確にさせ、その解決方法についてどのような手法があるのか話合いの場を多く設けたり、ヒントコーナーの場を設定したりする。
- ・これまでの「まなびあおう」で話し合ったことをもとにしたり、ゲストティーチャーなどの助言を聞いたりしながら、自分（たち）の考えを修正する場を設ける。

ま…「まなびあおう」

- ・「なんだろう」や「かんがえよう」などの学習過程での感想や考えたことをグループあるいは全体で発表し合い、それに対する新たな感想や考えを自由に出し合えるような話合い活動の場を多く持たせる。
- ・米作りに携わる地域の方や保護者、東日本大震災でボランティア活動をされた方、国際協力活動に関わっている方との交流や学習の場を多く設け、自分や自分たちの米づくりへの意義を考えていく。
- ・異学年と交流することで、互いのよさを活かし、有効な情報交換ができるようにする。

つ…「つないでいこう」

- ・自分たちが作ったお米を活用したり、送付したりすることで、全校児童、地域や保護者の方々、独居老人の方々、被災地やマリ共和国の方々など、地域からグローバルな人へと米を核としてすべての人とつながることに気付かせ、社会貢献、国際貢献を実感させる。
- ・活動した内容を振り返り、達成感や自己有用感を感じられるように、自己評価のみにとどまらず、相互評価、他者評価の場を設け、助言を与えたり、認めてもらったりして新たな学習意欲の高揚に努める。

(5) 特別支援の視点

○学習支援形態の工夫

- ・難聴学級に在籍する児童が、教師の指示や児童の発表を十分に聞き取れるように、FM補聴器・マイクを活用した授業をする。
- ・一人一人の児童の発表や発言の機会を確保するような話合いの場を設ける。

○学習教材の工夫

- ・難聴学級に在籍する児童には、指示カードを用いたり、ノートテイクをしたりする。

○学習過程の工夫

- ・一人一人の児童が、本時の学習の内容を理解して今後の授業に見通しをもちながら取り組めるように「なかまつ学習」を徹底し、ルビ付きの学習計画表を提示する。

Cプロジェクト情報活用能力の育成の視点から

総合的な学習の時間で情報活用能力を効果的に育成するためには、情報を活用する過程を位置づけた学習活動を工夫することが必要である。そこで、総合的な学習の時間における探究的な学習過程において、情報活用場面を効果的に設定することで、児童の主体的な活動を促すとともに、情報活用能力の向上を目指す。

また、本単元においては、情報活用場面としてTV会議の活用を行う。TV会議とは、TVやPCの画面で相手の顔を見ながら行う会議である。学習において、TV会議を行うことの利点として、遠距離の地域や人との交流や、普段出会えないような人材との交流、さらにFace To Faceの交流ということから、コミュニケーション力の向上が期待できる。

また、下記表は、TV会議活用において育成が期待できる情報活用能力と総合的な学習の時間で設定している身に付けさせたい資質や能力との関連を整理したものである。このことから、総合的な学習の時間において、TV会議を活用することは、身に付けさせたい資質や能力の育成の点からも、情報活用能力の育成の点からも、活用効果が高い。

身に付けさせたい資質や能力と TV 会議活用において育成が期待できる情報活用能力

項目	内容	テレビ会議活用	関連する情報活用能力
情報を集める力	聞き取りや見学、観察、実験、書籍、Web、メール、手紙等を使って、資料を集める。	TV 会議上の相手と話し合っ て、知りたい情報を集める。	目的に応じた方法での情 報収集
情報を選び整理する力	個人や班で話し合ったり、尋ね たり、助言を受けたりしながら 分類し整理する。	TV 会議上の相手と話し合っ たり、助言を受けたりしなが ら情報を分類し整理する。	情報の比較 情報の整理・分析
情報をまとめる力	調べたことを効果的に知らせ る方法を、個人や班で協議し、 まとめる。	伝えたいことが効果的に伝わ るようなCM構成を班で協議 し、まとめる。	情報の比較 情報の整理・分析
かかわる力	様々な立場の考えを聞いたり して、自分の考えをよりよく練 り直すことができる。	様々な立場の助言を聞き、自 分達の考えをよりよく練り直 すことができる。	情報発信による他人や社 会への影響
伝える力	自分の意見や考えが相手に伝 わるように発表する。	TV 会議上の相手に自分の意 見や考えが伝わるよう発表す る。	受け手の状況を踏まえた 表現

3 単元の目標と評価規準

単元の目標	○米作りを通して地域や日本、世界に関心を持ち自分の調べたいこと、知りたいことを明確にして課題を設定することができる。 ○収穫する米をどのように活用していくのかについて、必要な情報や資料を集め、必要な情報を整理したり、まとめたりして課題を解決できる。 ○マリ共和国、東日本大震災被災地、九州北部豪雨災害被災地の様子や状況を進んで調べ、自ら何ができるのかについて主体的に考え、活動することができる。 ○中松の米について、米作り体験やこれまでの学習を通してそのよさを分かりやすくまとめて発信したり、自分の考えや思いを分かりやすく発表したりすることができる。
課題をつかむ力	①中松地区のよさをもとに中松の米のおいしい理由を考え、どのような米作りをしているのか見通しをもっている。 ②収穫した米を活かした活動について話し合い、地域、日本、世界について調べたいこと、知りたいことをもとに課題を設定している。
考える力	①自分の課題に対してどのような方法で調べるのかを考えている。 ②地域や日本、世界の課題についてみんなで話し合いながら、米作りを通して、貢献できる方法を考えている。 ③自分の考えや思いをどのように伝えれば効果的なのかを考えている。
情報を集める力	①保護者や地域の人、NPOの方から話を聞いたり、友だちや異学年から情報を集めたりしながら、地域や日本、世界の現状と課題について理解している。
情報を選び整理する力	①集めた情報を取捨選択して、必要な内容を話し合い、情報を整理している。
情報をまとめる力	①整理した情報から、気付いたことや分かったことを、自分なりの方法で分かりやすくまとめている。
かかわる力	①課題解決のために、自分と関係のある人と積極的にかかわっている。
伝える力 (表現する力)	①気付いたことや分かったことを友だちと話し合ったり、発表したりしている。 ②分かりやすく伝える手段を考え、自分の思いや考えを表現している。 ③友達の気付きを聞いたり、自分の意見を述べたりして、表現の仕方を工夫している。
行動する力	①地域や東日本、マリ共和国の方々に笑顔と元気が与えられることをめざし、協力し合いながら行動している。

4 指導・評価の計画（60 時間取扱い 本時第 2 次 18/60 ）

次	時 間	学習活動	指導上の留意点 ※プロジェクトの視点から	評価基準(基準B) (評価方法)
1	6 4	1 米作り体験活動を行う。 種まき、代掻き、田植え、 系張り、鯉の放流、水の管理 2 学習課題を立てる。 ○米作りについて、これから取 り組みたいことを話し合う。	・地域の農家の指導を依頼 する。 ・昨年度の取組やウェビ ングマップをもとに話し合 うことで、活動の見通しをも てるようにする。	課題をつかむ力 （ノート・観察） 自分の調べたいことや取り組みた いことを 4 年時の活動やウェビ ングマップをもとに、理由をつけな がら具体的に考えている。
2	6	3 米作りの具体的な活動につ いて調べる。 ○米作りに必要な活動について 調べる。	・地域の農家と連携するこ とで、米作りに必要な活 動を調べられるようにす る。	情報を集める力 （ノート・観察） 地域の方々に質問しながら必要な 情報を集めている。
	4	4 米の活用について考える。 ○米の活用方法について調べ、 自分なりの考えをもつ。	・関係機関へ聞き取りを行 うことで、自分なりの考 えをもてるようにする。 ※ユネスコとのテレビ会議	考える力 （ノート・観察） 米の活用について自分の考えをも っている。 情報を選び整理する力
		○収穫する米をどのように活用 するのか話し合って決める。	・話し合うことで、考えを 深めるとともに、目的意 識を高めるようにする。	（ノート・観察） 集めた情報を話し合い分類し、必 要な情報を選び整理している。
3	4 14	○米作りの体験活動を行う。 稲刈り 脱穀 ○収穫祭活動の計画を立てる。 ・役割分担 ・CM制作	・地域の農家の指導を依頼 する。 ・昨年度の取組を参考に、 さらに発展するような内 容に取り組めるようにす る。 ・自分達のグループの取組 を伝えるCMを作成するこ とで、伝える力が向上で きるようにする。	かかわる力 （観察） 稲刈り、脱穀、精米等について、 地域の農家の指導を仰ぎながら活 動している。 情報をまとめる力 （観察・作品） 伝えたい内容を整理し、自分なり にCMの構成を考えている。 伝える力 （観察・作品） 編集及び完成したCMで自分の思い や考えを表現している。
4	10 2	5 収穫米を使った具体的な行 動を行う ・米の販売活動 ・収穫祭活動 ・マリ共和国への救援米活動 ・独居老人の方への赤飯配付 ・宮城県への支援米の送付 ○活動を通して気付いたことを まとめる。	・目的意識を忘れず行動で きるようグループごとに 活動の計画を立てるよう にする。 ・自分達の活動をふり返る ことで、地域の人々や東 北及びマリの方々に笑顔 を与えたことに気付くよ うにする。	行動する力 （観察・ノート） 自分たちが計画した活動を意欲的 に行っている。 かかわる力 （観察） 活動を成功させるために、積極的 に人とかかわっている。 行動する力 （観察・ノート） 自分たちの活動によって人々に喜 びを与えたことに気付き、人との つながりを考えている。
5	10	6 「なかまつお米づくり隊」の 活動を、次年度の 5 年生に伝え るためにまとめる。 ○伝えるテーマを決める。 ○米作りの活動の課題と成果を まとめる。	・成果と課題という視点か ら、テーマを考えること で、伝える目的意識が明 確になるようにする。 ・写真や資料を活用するこ とで、分かりやすくまと められるようにする。	情報をまとめる力 （観察・作品） 活動を通し、気付いたことや分か ったことを、自分なりの方法で分 かりやすくまとめている。

5 本時の学習

(1) 目標

日本ユネスコ協会連盟の方の講話を聞き、救援米活動の必要性を認識するとともに、課題別班「マリグループ」の発表を参考にしたり、昨年度の調べ方や取組をふり返ったりして自分たちのグループの情報収集の方法を見直すことができる。

(2) 評価基準

「考える力」（シート・観察）

（B基準）マリグループの発表やテレビ会議の内容、昨年度の調べ方や取組を参考にして、自分たちの調べ学習の方法や内容について具体的に考えをもっている。

（A基準）評価基準Bに加え、具体的に2つ以上の考えをもっている。

(3) 展開

過程	学習活動【学習形態】	主な発問・指示等	指導上の留意点及び評価 ※Cプロジェクトの視点	備考
な 5分	1 前時の学習をふり返り、本時の学習課題を確認する。 【一斉】	○マリグループの発表とテレビ会議を行い自分達の調べ学習について見直します。	○前時の学習内容についてふり返らせることで、本時の学習課題を把握できるようにする。	グループカード FMマイク
マリグループの発表やテレビ会議での話をもとにして、情報の集め方を見直そう				
か 5分	2 マリグループの発表【一斉】 (1) 調べ学習の途中経過報告 (2) 質疑応答	○日本ユネスコ協会連盟の方に、マリ共和国へ行ってきた時の現地の様子を話してもらいましょう。	徹底指導のポイント マリグループのよいところを気づかせるために、発表の仕方、話の聞き方、質問の仕方、話合いの仕方等を確認しておく。 能動型学習のポイント 自分たちの考えや思いを具体的に説明するために、情報源、内容、数値、映像などを項目ごとにチェックすることで、説得力ある情報収集ができるようにする。 ○十分な情報収集ができるように、事前に質問を考えるようにする。	調べ学習ノート テレビ会議
20分	3 日本ユネスコ協会連盟とのテレビ会議【一斉】 (1) 日本ユネスコ協会連盟の方の話・マリ共和国の様子 (2) 質疑応答		○マリグループの手法や昨年度の成果と課題を参考にすることで、自分たちの調べ学習の方法、内容、役割分担などについて考えられるようにする。	学習シート
ま 10分	4 グループに分かれ自分達の活動を再検討する。 【グループ】 (1) マリグループを参考にする。 (2) 6年生に昨年の方法や取組を尋ねる。	○マリグループの報告はとても説得力がありましたが、それはなぜでしょうか。 ○発表やテレビ会議への参加から、これまでの自分達の調べ学習の方法や内容を見直してみましょう。 ○学習シートに今日の学習での気づきや感想を書きましょう。	評価：考える力 (シート・観察) B：マリグループの発表やテレビ会議の内容、昨年度の調べ方や取組を参考にして、自分たちの調べ学習の方法や内容について具体的に考えをもっている。 (B基準に達していない児童への手立て) マリグループの発表でよかったことを具体的に挙げることで、考えをもてるようにする。	
つ 5分	5 今日の学習で、気付いたことや感想を書き、学習をふり返る。【個人】	○次は、さらに調べ学習を深めていきましょう。	○他者とのかかわりを通して、自分や相手の考えが深まることを感じ、これからの活動に意欲がもてるように、学習シートに気づきや感想を書くようにする。	ふり返りシート